

製薬企業の採用活動に変化 製薬協は、12月の大学主催・就職相談会参加を認める？。

製薬協は、製薬会社の採用活動は2月から実施するように求めています。一方、薬学部で学ぶ5年次生は実務実習があり2月からの就活スタートは公平さを欠くと見られてきました。

9月の第4週と思われるが、製薬協から大学の就職相談会への参加について12月の参加を認める方針が示されたようです。学内相談会を12月に計画した大学は胸を撫で下ろしているのではないのでしょうか。

一方で、12月開催の大学が多いので、製薬会社や調剤薬局は出席する大学を選択しなければならなくなりました。出席の意向を伝えていた大学に「社内の都合で出席できないかもしれません」という連絡を入れる会社も出てくるでしょう。

●製薬企業の採用活動

大学内の就職相談会が12月に集中

製薬企業は、2カ月間の採用活動では時間がないと感じています。また薬学部学生にとっても、実務実習がない12月に学内相談会が行われることは歓迎すべきことです。与えられたチャンスを生かしましょう。

○2011卒の就活はどうだった？

実務実習がインターンシップの役割を果たしました。

薬剤師の職場を見て、病院薬剤師になりたいという思いを強めた人が多かったのは間違いありません。

●実務実習に関する感想。

「机上ではできない経験ができた」

「薬剤師業務の実際に触れられて良かった」

「もっと勉強しなければと実感した」

「薬剤師が医療に貢献していることが分かった」

「薬剤師が置かれている実態と課題が分かった」

「薬剤師の責任の大きさを感じた」

「薬剤師の仕事は自分に合っていないと感じた」

2011採用の就職活動でいくつかの課題がみえてきました。実務実習を経験して進路を変更した人がいたのです。職場を見て気持ちが揺らいだ人です。病院や薬局の業務を経験して、自分には向いていないと感じた人が多かったといえます。

そんな皆さんが製薬会社の臨床開発職を視野に入れました。またMR職を希望する人も多かったようです。薬剤師から進路変更した人には、面接での評価が低く内々定が得られない人がいました。

●志望動機

○面接官 「志望動機をお話してください」

○学 生 「実務実習を体験し、調剤業務は同じ仕事の繰り返しです。私には合わない判断し、MRを希望しました」

○面接官の評価 志望動機「×」

○なぜ「×」なのでしょう。

消極的な志望動機です。「あちらが嫌だから、こちらを選びました」では評価されません。

○面接官が期待する返事の一例

「貴社の製品は、多くは患者の健康や命に貢献しています。実務実習を通じて貴社の薬に触れ、患者さんの回復の様子に触れることができました。ぜひ貴社のMRとなって多くの患者の治療に貢献したいと考えております」。

この会社に入りたいという熱意を伝えることが大切です。

●実務実習

○面接官 「実務実習はどんな仕事を体験しましたか？」

○学 生 「病院や薬局の現場は忙しく、指導薬剤師さんも学生指導まで手がまわりません。そのため指示された簡単な仕事をこなしていました」

○面接官の評価 自主性「×」

○なぜ「×」なのでしょう。

面接官は「指示待ち」と判断したのでしょう。現場が忙しければ、「業務をサポートすることを考え実行した」、「自分がやりたいことを提案して実行できた」などで考えて行動したことを期待していると思います。

上記のような面接を繰り返しては、内々定は獲得できません。これから就活をはじめ人はしっかり頭に入れておくといいでしょう。